

## 総合機能試験の確認結果（概要）

総合機能試験（7/13～7/26）において、燃料処理・貯蔵設備について、以下のとおり、一連の動作が良好であることを確認しました。また、燃料体取出し作業に向けて7/25以降は現場支援体制を強化して作業を実施しています。

## 【使用済燃料取扱試験】

燃料出入機本体Aにより、炉外燃料貯蔵槽に保管中の模擬燃料集合体の吊り上げ等が設計どおり行われ、床ドアバルブの開閉、ガス置換などの一連の動作が良好であることを確認しました。

## 【缶詰処理運転確認試験】

炉外燃料貯蔵槽に保管中の使用済制御棒を洗浄し、缶詰缶に収納した後、燃料池に移送、貯蔵が設計どおり行われ、床ドアバルブの開閉、ガス置換、洗浄、缶詰などの一連の動作が良好であることを確認しました。

## 【缶詰・新燃料移送運転確認試験】

炉外燃料貯蔵槽に保管中の使用済制御棒を洗浄し、缶詰缶に収納した後、燃料池に移送、貯蔵する試験と、これと並行して、新燃料貯蔵ラックに保管中の模擬燃料集合体を、炉外燃料貯蔵槽に移送、貯蔵する試験を行い、床ドアバルブの開閉、ガス置換、洗浄、缶詰などの一連の動作が良好であることを確認しました。

なお、総合機能試験を含む作業中に発生した以下の不具合については、原因の究明、対策を確実に講じ、安全最優先で、作業を進めています。

- ・燃料出入機A グリッパ動作不良（7月4日）  
原因は、ナトリウム化合物がグリッパに付着したものと推定。対策としてグリッパ及びアダプタの洗浄を行い、正常な動作を確認済です。
- ・炉外燃料貯蔵設備ブローダウン流量調整（7月13日）  
原因は、炉外燃料貯蔵設備のドアバルブに流すアルゴンガスの流量を6つのドアバルブとも同じ弁開度で供給する手順としていたため。対策として、使用するドアバルブ毎に弁開度を変更する手順に見直しました。
- ・地下台車及びドアバルブガス置換系真空ポンプの停止（7月13日）  
原因は、真空ポンプを分解して点検した結果、内部の油戻し弁の動作不良により、モータが過負荷になったものと推定。対策として予備の真空ポンプに切り替えて、運転し、正常であることを確認しました。今後、停止した真空ポンプの油戻し弁等の部品の取り換えを行います。
- ・燃料出入機本体Bによる缶詰缶吊り上げ時における停止（7月16日）  
原因は、グリッパ開閉用クラッチの内部で、部品が突き出し、クラッチ板と接触したため、クラッチ板の部品が脱落し、噛みこんだことによるものと推定。対策として、クラッチの交換、部品の固定処理（接着剤及びカシメ）、組立手順の見直しを行い、当該部で接触が生じていないことを確認しました。また、燃料体取出し作業に使用する設備の点検実績についても調査を行い、不具合が生じないことを確認しました。

以上